

宮城中部沖GPS波浪計の観測体制確保について

東北地方整備局が宮城県金華山沖合約15kmの海上に設置している「宮城中部沖GPS波浪計」について、電圧低下により、4月17日（金）から観測停止措置を行っておりましたが、5月13日（水）より観測体制が整いましたのでお知らせします。

（観測停止のお知らせは4月20日（月）及び4月21日（火））

観測停止措置直後は、蓄電池の電圧が低く、日照条件によっては稼働できないこともあり得る状態でしたが、4月23日（木）に損傷していた太陽光パネルを交換し、電圧の推移について経過観察してきた結果、観測可能な電力量の確保が確認できたため、観測体制を整えたものです。これに伴い全国港湾波浪情報網（ナウファスHP）※での観測情報の公表を再開しております。

なお、今後も電圧の経過観察を継続してまいります。また、気象庁への観測情報の提供も再開しております。

【GPS波浪計】

- ・GPS波浪計は、港湾整備に必要な沖合波浪を観測する目的で設置したもので、観測データについては、全国港湾波浪情報網（ナウファスHP）※で公表しています。
- ・また、地震発生時には、津波観測も可能であることから、気象庁に観測データを提供しており、気象庁の津波情報にも利用されています。

※ 全国港湾波浪情報網（ナウファスHP）<http://www.mlit.go.jp/kowan/nowphas/>
（国土交通省港湾局が運営する沿岸の波浪、潮位等の観測網のホームページ）



パネル交換後の確認状況（4月23日）

【発表記者會】宮城県政記者會、東北電力記者會、東北専門記者會

【問合せ先】国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部

電話022（716）0004 海洋環境・技術課 課長 伊藤裕哉、課長補佐 伊賀浩之